



# 原発災害に 立ち向かう

目の前に広がるふるさとの景色は何ひとつ変わらない。  
しかし、田植えもできなければ、野菜の種をおろすことも、山菜を採ることすらもできない。  
生まれ育った土地を離れ、家族や家畜と離ればなれになり、いつ帰れるかもわからない。  
こんな試練がかつてあったらどうか。

「ヤマセが吹くこの土地で、集落みんなで力を合わせ、工夫して、生きる基盤をつくってきた。原発のせいで一度“ちらっばら”（散り散りばらばら）になっても、きっとこの土地に帰ってくる」と、荒れた共同牧野を整備した観光わらび園を背に決意を語る佐藤忠義さん（福島県飯館村・農業） 写真＝大西暢夫